

2012 8/14

No.1928

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



「ヨコハマ恐竜展2012～福井県恐竜博物館コレクション」が20日、横浜市西区のパシフィコ横浜で開幕し、フクイラプトルやティラノサウルス、トリケラトプスなど約100点が展示されている。8月27日まで。



政経かながわ

2012 8/14 No.1928

contents

視点・点描	3
美談で済まぬ漂流がれき	
政治	4
第三極浮上で政界再編!?	
小沢新党埋没も、次期衆院選	
経済	6
軽減税率が増税論議の焦点に	
食料品、水など俎上に	
国際	8
中間層、低所得者層も活況	
経済成長続くインドネシア	
くらし2012	10
血行改善で肩こり解消	
企業最前線	12
快走できるか「超小型車」	
広告珍談	14
～福沢諭吉のおしえ⑨	
コンクール・ブーム	
経済反射鏡	15
自民、選挙資金で協力要請	
政権交代にらむ経団連	

事務局だより

◇横浜定例講演会

2012年8月21日（火）

13時30分～15時

ロイヤルホールヨコハマ

講師は原田武夫国際戦略情報
研究所代表取締役(CEO)の
原田 武夫 氏

演題は「欧米経済危機後の世
界～日本が進むべき道を探る」

◇横浜定例講演会

2012年9月14日（金）

13時30分～15時

ホテルキャメロットジャパン

講師はS M B C日興証券株式
調査部副部長の大西 史一氏

演題は「世界経済と金融市場
の動向について～注目ポイン
ト “3つのマクロ的転換”」

視点 点描



美談で済まぬ漂流がれき

東日本大震災で発生した1880万トにも及ぶ「震災がれき」のうち、6月末時点で処理が済んだのは382万トに過ぎない。いまなお残る8割近くのがれきをいかに迅速に処理するかが復興への課題となる一方で、国際問題にも発展しかねない新たな問題が持ち上がっているのを、ご存じだろうか。地震による巨大津波は、「漂流がれき」というやっかいな代物も

生み出した。現在は洋上を漂流中だが、今秋から来春にかけて北米大陸の太平洋沿岸に流れ着くと予測され、その対応が待ったなしの課題として浮上しているのだ。環境省の推計によると、昨年3月の大震災で岩手、宮城、福島の間から太平洋上に流出したがれきは約500万トにもなった。このうち7割程度は日本近海に沈んだとみられるが、破損した家屋の

木材など比較的軽いがれきは海の藻くずとはならず、いまなお約150万トが海上を漂っている可能性があるという。

こうした震災の置き土産は偏西風や海流の影響を受け太平洋を移動している真つただ中。環境省が京都大学などと実施したシミュ

レーションでは、ハワイの北側にある「太平洋ごみベルト」と呼ばれる海域を通過し、今年10月ごろには約1・2トがカナダの西海岸付近に漂着する見込み。

その後も徐々に漂着するがれきの量は増加する見通しで、来年2月までには約4万1300トが米アラスカ州からカリフォルニア州までの広い範囲の海岸付近に到達するという。今春に米国西部の海岸で発見されたバレーボールなども、この漂流がれきの一部。木材よりもさらに軽いため、偏西風に

押し流されて一足早く到達したに過ぎなかった。震災から1年という節目に発見された「思い出の品々」は当時、「美談」として本紙を含む新聞紙面ににぎわしたが、量が膨れ上がると、話は少々複雑になってくる。

流出は東京電力福島第1原発の事故前のため、がれきに放射性物質が付着している可能性は少ない。しかし、多量に漂着したがれきを放置することはできない。漂着物の処分には国際ルールはないそう、で、流れ着いた沿岸の国や自治体が処理するのが一般的だという。自然災害が原因とはいえ、日本が何もしなくてよいのか。被災後にかの国から差し伸べられた援助の数々を思い起こすと、「恩返し」の必要がありそう。

(神奈川新聞社)

統合編集局次長・宮本 敏也

コンクール・ブーム

高橋義雄から三越の改革を引きついだ日比翁助は、広告界にブームを起こした。1911（明治44）年1月3日、三越が新聞各紙に出した全ページ広告がきっかけである。

《恭しく新年を賀し ここに金千五百円の賞金を提供す。本年四月の大売出しに用ゆべき広告画の図案を懸賞募集す》
 広告画とはポスターのこと。賞金付きでポスターの原画を公募する、つまりポスターのデザイン・コンクールである。応募規定は日本画・洋画・水彩画のいずれでもOK。色も構図も目立って、美人をテーマにすること。しめ切りは2月20日。賞金1等は10000円。小学校教員の初任給が15円のころ、高額の賞金で話題になった。

全国からの応募301点のなかから洋画家・岡田三郎助など、審査員の全員一致で選ばれたのは下図、橋口五葉

の作品「此美人」である。

大きなリボンをつんで、なでしこ模様のきものを着た女性が、長椅子に腰掛けて浮世絵草紙を見ている。満

開のチンチョウゲの壁紙にイスも洋室も、アール・ヌーヴォー様式を取り入れてざん新である。

「細面の美人が、江戸時代の彩色刷の絵本を膝にして、正面を向いている。この絵がポスターに採



用されて、五葉には賞金一千円が贈られた。なお二、三、四等各一人、五等は六人あり、その五等の中に、山村耕花、徳永柳洲などの知名の人がいる」と『美術新報』が報じた。35度刷りの精巧な石版印刷で、ポスターは完成した。

橋口君の画の方がうまい様だ」と、賛美した若い画家。日本最初のデザイン・コンクールはブームを起こし、ポスターをはじめ新聞広告も、キャッチフレーズも、イラストも写真も、さまざまの企業が募集した。

橋口は東京美術学校に在学中、夏目漱石の『我輩は猫である』の挿絵を描いた。1905（明治38）年1月、漱石が作家としてデビューした雑誌『ホトトギス』である。漱石は「僕の文もうまいが、

日比は1860（万延元）年、久留米の生まれ。慶応義塾を卒業、福沢の推薦でモスリン商会の支配人。96（明治29）年、三井銀行の中上川社長に経営手腕を認められ、入行した。中上川彦次郎は54（安政元）年大分の生まれ。母は福沢諭吉の姉。慶応卒業後イギリス留学。『時事新報』発刊とともに社長。山陽鉄道社長をへて91（明治24）年、三井銀行の社長に、三井財閥を築いた。橋口はその後、漱石の著作のほとんどを装丁した。（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）
 （図）日本最初のデザインコンクール受賞作の三越のポスター・1911（明治44）年